

# 「エコ倶楽部探検隊」 「水源地をきれいにするキャンペーン」及び

## 宮城県管工業協同組合青年部連絡協議会

- 担当役員 佐竹毅彦・大宮 健
- 実施日 平成17年10月1日（土）
- 参加者 38名【会員22名 会員家族（子供）16名】

10月1日（土）、今年で第5回目となる「水源地をきれいにするキャンペーン」及び環境問題研究教室「エコクラブ探検隊」が会員等38名（大人22名／清掃のみ6名、子供16名）が参加して行われました。

この事業は、会員とその家族、とりわけ次世代を担う子供たちを対象に水源地等の清掃や自然とのふれあいを通じて、水を大切に思う気持ち、水への感謝の心を育てることを目的に、社会貢献事業の一環として毎年実施しているものです。

当日は、仙台駅西口に集合し、大型バスを借り切って清掃場所である釜房ダムへと向かいました。釜房ダムは、「多目的ダム」であり、利水（灌漑用水、水道用水、工業用水、発電）の役割と、治水（ダム下流の洪水を防止する）の役割を担う仙台市の水瓶といわれています。

現地では、清掃のみに参加する6名と合流し、佐竹会長

からの挨拶があり、国土交通省東北地方整備局釜房ダム管理所の所員の方から、清掃についての注意事項等について説明を頂いた後、ダム管理所から日の沢橋までの町道とダム周辺に分かれて約1時間にわたって清掃しました。空き缶やタバコの吸殻、なんと車のタイヤまで捨てられており、改めて環境問題やマナーについて考えさせられました。

次に昭和53年に完成した仙台市最大の浄水場である茂庭浄水場を訪ね、職員の方々の説明を聞いた後、浄水場の仕組みに関するビデオを鑑賞し、場内の施設を見学しました。普段、私達が何気なく飲んでいる水道水も、多くの人の手と広大な施設を経てつくられた大切な水であるということに再認識させられました。

茂庭浄水場の見学後は、昼食場所である「サッポロビール 仙台工場」内にある仙台ビール園に移動して『工場できたて』の生ビール、そしてジンギスカンを頬張り、清掃活動でお腹が空いていたせいも、皆、大皿山盛りの焼肉をペロリと平らげていたようでした。また、バスの中では、ビンゴゲームで景品が当たる度に歓声が上がる等、子供たちのとても楽しそうな顔が印象的でした。



釜房ダム管理所前での集合写真



釜房ダム周辺の清掃作業風景



仙台市最大の浄水場「茂庭浄水場」施設見学風景



昼食場所である「サッポロビール園」での集合写真